



水大学園だより

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111
ホームページ <https://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学 生 課

ごあいさつ

理事（水産大学校代表） 藤 井 徹 生



平素より保護者の皆様をはじめ関係各位には、水産大学校の運営に関しましてご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

この4月に水産大学校代表に就任し、3か月が過ぎました。毎日、山陰本線で通勤しています。最初は、単線非電化、ワンマン運転、無人駅、ICカード非対応という現実

にカルチャーショックを受けましたが、いまでは朝夕の車窓から、海の表情を楽しんでいます。吉見の海は、天気によっても、季節によっても、まったく違う表情を見せてくれます。まだ春から梅雨までしか経験していませんが、こんなに表情の豊かな海と出会ったのは初めてです。また、海辺においてみると、岩場、砂浜、干潟、河口と、海岸を構成する要素がすべてそろっており、海について学ぶには最高の環境だと感じています。

私は1986年（昭和61年）に水産庁に採用され、研究畑を歩んできました。水産庁日本海区水産研究所（新潟県新潟市）でのヒラメの生態に関する研究を皮切りに、瀬戸内海区水産研究所（広島県廿日市市）ではサワラやトラフグの栽培漁業、国際農林水産業研究センター（茨城県つくば市）では東南アジアの国々との養殖に関する共同研究、さらに水産資源研究所さけます部門（北海道札幌市）ではふ化放流事業に取り組みました。また、国際対応としては、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の海洋・雪氷圏特別報告書の検討に参加したり、北太平洋海洋科学機関（PICES）の日本代表を務めたりしてきました。この度、長年かけて蓄えに蓄えてき

た経験を、人材育成を通して社会に還元する機会をいただき、とても光栄に思うとともに責任の重さをひしひしと感じています。

こちらに赴任してから印象深かった行事のひとつに、6月2日に本校のすぐ前の海面で開催された第68回全日本カッター競技大会がありました。新型コロナウイルス感染症の影響で本校のカッター部も存続が危ぶまれた時期があったと聞きましたが、男女とも堂々のレース運びを見せてくれました。また、地元開催ということで大会の主管校を務めましたが、部員だけでなく教職員や応援の学生さんたちも一丸となった見事な運営で、大会を成功に導きました。活動を再開したのはカッター部だけではありません。夕方になると体育館からもテニスコートからもグラウンドからも、学生さんたちの声が聞こえてくるようになりました。6月29日には、インドネシア漁業実習生とのフットサル国際交流試合を開催しました。本校からは学生チームと職員チームが参加し、白熱したゲームを繰り広げました（職員チームが優勝するという、空気を読まない結果でしたが）。試合後にはお互いの健闘を称えあい、国境や年代を越えて交流が深まるイベントとなりました。このように、各方面でかつての年中行事が復活しつつあり、“コロナ前の日常”が戻ってきていると実感しています。一方で、乗船実習前の検査等、まだまだ気を抜けない部分もあります。校内だけでなく、地域や社会との交流が急速に回復するなか、まずは安全と健康を第一に、学生さんたちが道に迷ったり踏み外したりしないよう、注意深く見守ってきたいです。

社会で生きていくためには、知識・技術も大事ですが、やはり最後にものをいうのは人としての魅力だと考えています。学生さんたちが、様々な経験を積みながら、夢に向かって健やかに、そして魅力的な大人に育つよう精一杯務めますので、今後ともご指導、ご鞭撻をいただけましたら幸いです。

最近の話題

来年度（令和7年）に本校で日本水産工学会学術講演会が開催されます

海洋生産管理学科 教授 川 崎 潤 二

日本水産工学会は、水産に関わる漁場、漁港、水産増養殖、漁船、漁具漁法、海洋測器、水域環境、漁村計画、または水産物加工などの各分野を対象

としており、本校においても10名以上の教員が学会員として、研究活動の一拠点にしています。同学会の学術講演会は年に一度、春季に開催されており、令和7年度は本校で開催されることとなりました。

同学術講演会は、前回の本校での開催は平成29年度であり、8年ぶりとなります。その間、新型コロナウイルス感染症が国内でも流行し、社会や生活

面全体に大きな影響を与えたこと、また水産政策として、約70年ぶりに漁業法の大幅な改正が行われました。水産における関連分野では、「スマート水産業」、「水産業の見える化」が推進されるとともに、AIの活用、ドローンなど最新のハイテク機器や小型高精度センサーを用いるなど、水産分野を対象とした研究における技術進歩が明らかとなってきます。それと同時に、水産資源を持続的に有効利用していくという水産学の立ち位置は、年月が経過しても変わらないこと、そして海に囲まれた日本にとって必要な、特色ある学問として、今後も受け継がれ、さらに発展していくことの重要性は、益々大きくなっていると感じています。

学術講演会では、学生優秀賞対象講演としてエントリーが可能であり、その中で数件の研究発表に対して優秀賞が授与されます。前回の本校での開催時には、本校からも1名の研究科生が優秀賞を受賞しました。来年度開催時にも、本校から多くの学生がこの対象講演にエントリーして、優秀賞を獲得してもらえればと願っています。また、学術講演会を本校キャンパス内で開催するにあたり、本校の在校生が、研究発表を自由に聴講出来るように配慮する予定です。

学術講演会では、全国の水産系大学や研究所、関連企業から多くの研究発表が行われます。また、講演会開催期間中に、シンポジウムの開催も予定されています。学生の皆様には、是非学術講演会に参加して頂き、水産に関する最新の話題や課題について触れると共に、これからの水産業の在り方に関してなど、自身で考える機会にして頂ければ幸いです。

なお、学術講演会の日時等（日にちは5月24日、25日を予定）の情報は学内向けにも発信する予定ですが、講演会のプログラムなどの詳細については、学会ホームページ <https://www.jsfe.gr.jp/wp/> に最新の情報を掲載していきますので確認して頂ければ幸いです。



日本水産工学会
Japanese Society of Fisheries Engineering

学会のロゴマーク

着任のご挨拶

海洋機械工学科 教授 田中辰彦

令和6年4月1日付で耕洋丸機関長から実習教育センター併任で、海洋機械工学科教授に配置替えとなりました田中辰彦と申します。出身は地元の下関市です。昭和57年に水産大学校機関科に入学し、61年に卒業した36期です。昭和62年に専攻科を終了し、水産庁船舶職員として採用され、漁政部漁政課船舶管理室に船舶予備員として配属となりました。開洋丸、白鷗丸、白嶺丸に乗船し、平成元年に照洋丸三等機関士として定員になりました。当時の照洋丸は調査船で、夏は北太平洋でイカ流し網調

査、秋からはオーストラリア沿岸でミナミマグロ調査の年間2つの外航調査でした。乗船した船舶の推進機関は、電気推進、低速4サイクル、2基2軸、2基1軸と、それぞれ違い、取締船と調査船を体験し、貴重な経験と思っています。また、多くの職員と知り合えたこともあり、たたく思います。

平成3年4月、天鷹丸三等機関士として水産大学校勤務が始まり、令和6年3月31日に耕洋丸機関長として60歳の定年退職を迎えるところ、昭和38年生まれ組からの定年延長が始まり、水産大学校海洋機械工学科勤務に配置換えとなりました。天鷹丸、耕洋丸両船で33年間の練習船勤務となり、予備員時代から数えると35年を超えて乗船履歴が繋がっていき、大きな怪我や病気もなく、この歳まで無事に乗船できたことを有難く思います。

学生に対し、「単位を取得して乗船しているのに、こんなことも知らないのか」と、指導を始めましたが、よく考えれば、自分の時代もそうだったことを思い出し、どうやって解りやすく、確実に、基礎（三級海技士レベル）を学生の頭に入れるか。こう考えて指導を続けました。私の時代の機関科は三級海技士から筆記試験を受験していましたが、今の海洋機械工学科は三級海技士筆記免除となり、学生は二級海技士から筆記試験を受験しています。学生にとって良い事ですが、船社会に就職し即戦力として働くため、そして専攻科終了時の三級海技士口述試験に合格するために練習船の実習に加え、基礎からの総復習を行ってきました。これからは練習船の経験を生かして学生教育を行っていきたいと思います。水産大学校職員としては長いのですが、海洋機械工学科としては、初めての勤務となります。皆様、よろしくお願い致します。



洋上鮮度管理実習

食品科学科 教授 和田律子

5月21日（火）から27日（月）の7日間、「洋上鮮度管理実習」が練習船耕洋丸にて行われ食品科学科3年生47名と教員2名（辰野竜平先生、和田）が乗船しました。この実習ではトロール漁（底びき網漁の一種）にて獲れた魚を用い、鮮度や加工に関する実習を行うことが主な内容となっています。初日は乗船式と船内生活について講義、2日目に下関を出港し、明日からいよいよ実習となった3日目、トロール装置の試運転時に不具合が生じました。船の方が総出で夜遅くまで修理して下さいましたが残念ながら復旧せず、トロール漁ができないことになりました。トロール漁が駄目ならば別の手段で魚を得るしかありません。そこで釣りで魚を確保することになり、4日目は奇数班が五島列島北側で、5日目は偶数班が山口県沖にて実習を行いました。両日

とも実習開始前から船員さんが魚を釣って下さり、学生も協力して何とか最低限の魚を得ることができました。まず漁獲直後のエラの色や眼球など、鮮度低下とともに変化する箇所を観察等を行い、次にその魚を使って加工品を作りました。干物(塩干品)、みりん干し、みそ漬けのうちから最低2種類、余力があれば醤油漬けも作ってよいとしたところ、殆どの班が3種類を作り、中には4種類作った班もありました。魚の量が少なかったので一つ一つの作業を丁寧に行うことができた結果、例年よりも加工品の出来が良かったことは不幸中の幸いでした。また、3、4日目の20時から実習の無い方の班が機関および船橋当直を体験しました。3つの班が3交代で4時間働き8時間休憩を取ることを翌日の20時まで行いました。夜中に起きての作業は大変だったと思いますが、安全に航海できているのは24時間誰かが働いてくれているからだということを実感し、船員さんを見る目が変わったようでした。夜にはイカ釣りもさせていただきました。イカは数杯しか釣れませんでした、多くの学生は初めてのイカ釣りを楽しんでいました。また、入港日が低気圧接近により1日早まり6日目になったことも予期せぬ変更点でしたが、着岸状態で7日目まで滞在し、所定の内容を無事に終えることができました。

洋上での実習は状況に応じて臨機応変に対応することが求められますが、今回は良くも悪くもそれを十分に体験できた実習であったと思います。揺れる船内で船酔いや睡魔と闘いながら講義を受けたこと、限られた空間で快適に過ごすには規律を守り協力しあうことの大切さを学んだことは、陸上の実習では得難い貴重な経験であったことと思います。この実習で学んだことが今後の学生生活の糧になれば幸いです。最後になりましたが、本実習を行うにあたり御世話になりました耕洋丸の皆様をはじめとする関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



釣れたサバの重量測定中

着任のご挨拶

生物生産学科 助教 山田 太平

令和6年4月1日付で生物生産学科生物環境学講座の助教に着任いたしました、山田太平と申します。私は、北里大学海洋生命科学部を卒業後、北海道大学大学院農学院において修士号を取得しました。また、修士課程の途中から並行して北海道十勝

地方にある博物館施設において学芸業務に従事しました。2年間勤務しましたが、やはり研究の道に進もうと思い、北海道大学大学院農学院に再入学し、博士号を取得しました。そして、北海道大学大学院地球環境科学研究院での日本学術振興会特別研究員PDを経て、本校に助教として着任いたしました。



私の研究キーワードは「河川生態学」です。生態学とは、生物と環境、または生物同士の相互作用を理解しようとする学問です。なので、河川生態学は河川生態系における相互作用を理解しようとする学問になります。これまで私は、この河川生態学の分野において、泥臭いフィールドワークとデータ解析を組み合わせ、基礎と応用の両面から幅広く研究に取り組んできました。基礎的な研究では、サケ科魚類を対象として、「分布が季節によってどのように変わるのか」、「産卵が生態系にどのような影響を与えるのか」、「いつ移動を行っているのか」などのテーマに取り組んでいました。応用的なテーマとしては、「湿地性魚類の生物多様性を守るためにはどのような手法が有効か」、「ダム建設に伴う生物群集への悪影響をどうやって緩和するか」、「サケ科魚類の産卵場所はダムによってどのくらい利用できなくなっているのか」、「気候変動はサケ科魚類に対してどのような影響を与えるのか」などが挙げられ、課題の解決に向けて力を注ぎました。水産大学校においてもこれまでと同様に、基礎と応用の両面から生態学的な研究に取り組んでいきたいと考えております。

上述の通り、これまで私はさまざまな研究を実施してきましたが、講義や実習、研究指導などに関してはほとんど経験がありません。そのため、学生教育に関する経験をこれから積んでいく必要があります。学生目線を大切にして、水産業界や学界で活躍できる人材の育成に貢献できるよう、尽力いたします。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

耕洋丸三等機関士 安野 虎太郎

皆様、こんにちは。令和6年4月より耕洋丸三等機関士に着任しました、安野虎太郎と申します。初めに、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は山口県長門市出身で、友達の漁師の船や祖父の職場の船に乗せてもらったことがきっかけで、将来自分も船に乗りたいと思い、水産大学校を受験しました。その後、水産大学校の実習船でエンジニアの皆



さんが一生懸命仕事をし、船のことについて熱心に教えて下さる姿を見て、将来自分も学生に教える立場になりたいと考え水産研究教育機構へ就職し、令和6年3月に専攻科船用機関課程を卒業し、4月より耕洋丸へ配属となりました。

私は社会人1年目ということもあり、機関士としてや乗組員の一人として学生に指導できるか不安

でしたが、実際に働いてみて去年まで学生として乗船時に学んでおくべきだった知識や実習への取り組み方などを学生に一番近い立場で話せることが自分の一番の強みだと感じたので、そこを一番に学生の指導をしていこうと決めました。また、耕洋丸では将来船乗りにならない学生も乗船するため1人でも多くの学生に興味を持ってもらい、下船時に楽しかったといってもらえるような実習になるように努力します。

現在、耕洋丸では学生の実習以外に調査も行っています。私自身現場に出て調査のお手伝いをするとはなかなかありませんが、機関士として航海士の方々と、調査員の方々とコミュニケーションを取り、調査が円滑に進むように機関の保守・点検に努めます。また、1人のエンジニアとしてはまだまだ力不足なので、これから多くの経験を積み少しでも早く自立できるよう日々学んでいきます。

私が学生時代にご指導頂いた乗組員のみなさんは様々な経験をされ知識が豊富で、人間として尊敬できる方ばかりでした。私自身まだまだ未熟ですが、少しでも早く私も学生にそのように思ってもらえるように、指導しながら私自身も学生と共に学び成長できればと思います。

水産大学校練習船の実習は、より少人数で間近で観ながら、実践的に行えることが魅力であると考えています。水産大学校では、これらの実習を通して社会で即戦力となる人材を毎年輩出し、様々な分野でご活躍されている方々が勢おられます。これからも多くの優秀な人材を輩出できるように、練習船教官として微力ながら貢献していきたいです。

着任のご挨拶

水産流通経営学科 助教 加藤 一 輝

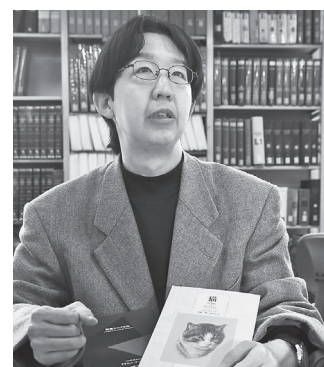
4月に着任しました加藤一輝（かとう・かずき）と申します。専門はフランス革命期のフランス語圏文学で、本学ではフランス語の授業を担当しています。大学まで東京で過ごしたあと、リヨンとパリに暮らし、帰国後は東京の幾つかの大学で非常勤講師をしていました。いまは吉見に住んでおり、おきゅうとや卵の花きずしといった、これまで知らなかった食べものをスーパーで見つけては楽しく味わっています。

郷土料理のように、言葉にも地域の味があるでしょうか。フランス以外のフランス語圏の国にとって、これは重要な問題です。土地に根ざした、俗語まじりの訛った言葉は、単に「間違った」「下手な」フランス語ではなく、風土を反映した、その国のアイデンティティを成す言葉となりうるのか。フランス、スイス、イタリアの三国にまたがるアルプス域の、フランス語圏だが「フランス的」でない山国の文学を手掛かりに、研究しています。

日本では、料理の名前で馴染み深いフランス語が多くあります。これもフランス国外で土着化したフランス語かもしれません。授業では、そうした例を紹介しつつ、身近で興味深い言葉として学んでもらえるよう試行錯誤しています。どうぞよろしくお願いします。

自己紹介

水産流通経営学科 教授 橋 本 博



今年度4月より水産流通経営学科（流通経営講座）に着任いたしました橋本博と申します。この場をお借りして、自己紹介をさせていただきます。

私は小・中・高と山口県宇部市で育ちました。中学生の時に、父親が早朝近くの漁港でマアジを購入し、七輪（炭火）で焼いてくれました。朝の食卓にマアジの炭火焼きが出てきたのですが、これが旨いのなんの。その美味しさに衝撃を受け、この経験をきっかけに「将来、魚を育てる仕事に就こう!」と考えました。高校生の時には、「クロマグロ養殖を行いたい」と考えるようになり、東京水産大学へ進学、日本栽培漁業協会（以下、日裁協）に入社。日裁協では技術者として、魚を育てるために必要な動物プランクトンの大量培養、トラフグ・ヒラメの種苗生産を担当。その後、日裁協は現在の水産研究・教育機構と統合し、今度は研究者としてウナギ・カンパチ・スジアラの養殖研究を行い、38歳にして念願のクロマグロ養殖研究に従事でき研究に没頭。次の夢は、私が培った技術員としての経験と研究員としての知識を活かして養殖分野に貢献できる人材を育成したいと思いが募り、この度水産大学校の教員となりました。

学生の皆様には養殖業全般の楽しさ、厳しさを伝えつつ、社会人として旅立つまでのサポートを行っていきたく思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

在校生の声

人間力がつく乗船実習

水産流通経営学科2年 満 永 悠 生

5月に行われた乗船実習を通して、私は大きく成長したと感じます。日常生活において絶対にできない経験をたくさんすることができました。その中でも特に印象に残った出来事を紹介します。

まず、一つ目は、ブリッジの4-8ワッチです。真っ暗な時間にブリッジに上がり、最初は何も見えなかったけれど、次第に目が慣れてくると、満天の星空が見え本当に感動しました。さらに、朝日が昇る瞬間も見ることができ、そこで、飲むコーヒーの味は格別でした。

次に、二つ目は、機関ワッチです。正直なところ機関系については興味が無く、4時間もワッチをするのは「疲れるな」と思っていたけれど、専任教官が優しく色々な事を教えてくれたので、あっという間に4時間が経過していきました。

三つ目は、船上においてのチームワーク、協調性です。これは、船上生活において、一番基本的なことではありますが、本当に重要なことだと再認識しました。挨拶や思いやり、助け合いなど、周囲の人との協力をしっかりと行うと、同じ仕事をするにしても、それが何倍にも楽になり、楽しくなり、素早くできると実感しました。

最後に、乗船実習での経験はそう簡単には得られない貴重な経験ばかりでした。人としてかなり成長することができたと実感しています。また、船員の皆さんはとても優しく色々な事を教えてくれました。時には一緒にキャッチボールをしてくれたり、場を盛り上げたりするなど、私たちの事をいつも気にかけてくれました。たくさんの人に支えられ、感謝の気持ちがいっぱい楽しい乗船実習となりました。

「水産」漬けの大学生活

生物生産学科3年 鈴 木 彩 那

本校に入学して早くも2年が経ち、大学生活も残り1年半となりました。入学当初は新しい環境に不安を感じていましたが、今では充実した大学生活を送っています。

私が所属する生物生産学科では、1年生の頃から講義だけではなく様々な実験や実習があります。例えば実習には、増養殖、陸水系、沿岸生態系、海洋学および漁業を対象とした実習があります。多彩な実習では知識が増えるだけではなく、実際に経験し感じたことを深く心に刻みました。また学校外では、水産業が盛んな下関市を活かして、水産加工工場や魚市場といった様々な水産現場でアルバイトとして働きました。実際に水産業の現場を経験することで、大学で学ぶのとは別の視点から日本の水産業

の現状をより深く知ることができました。このように、大学生活では常日頃から「水産」と関わった生活を送っています。

3年生になり、就職活動や研究室配属、卒業論文研究が始まろうとしています。これまで学んだことを活かせるよう、そしていつか日本の水産業に貢献できるように、悔いのないよう日々精進していきたいと思います。

新たな挑戦

食品科学科2年 向 山 咲

水産大学校に入学し、2度目の夏がやって来ました。ちょうど1年前、寮生活の開始や自動車免許の取得、アルバイトなど初めての経験をたくさんしました。また、普通科の高校に通っていた私にとっては、水産に関する内容を授業で学ぶことも初めての経験でした。入学当初は基礎知識の不足を危惧しておりましたが、1年間当校のカリキュラムで学んだことで払拭され、現在はより専門的な知識を身につける為、勉学に励んでおります。

昨年度は、新たな挑戦として端艇部に所属し、仲間から多くのことを吸収しました。先輩達は右も左もわからない私に、操縦の仕方や各部の名称、もやい結びの結び方を教えてくれました。大会では、他校と競い、互いを高め合いました。そして、今年は新たな挑戦として海響館での水族館実習に臨みます。幼少期から大好きだった水族館。そんな憧れの場所で実習ができることに感謝し、自己研鑽に励みます。

来年には3年生。就職先や進路を考える時期になります。進路の選択肢を広げるために、今後も向上心とチャレンジ精神を持ち続けることが大切だと考えております。4年間という限られた時間ではありますが、挑戦して得た経験を糧に、日々精進してまいります。

水産大学校での学び

海洋生産管理学科3年 長谷川 真 穂

水産大学校には、漠然と海について学びたくて入学しました。実際入学してみると、本校の講義での学びはとても興味深く、日々海についての知識が増えていく感覚がとても楽しいと感じています。入学後の2年間の講義や実習では、水産資源や航海についての様々な知識を身につけることができ、色々な視点で物事を捉えることができるようになりました。特に、2年次の乗船実習で、実際に見た海図記号や灯浮標について、その後の座学である地文航海学で学習した際には、現場の情報と知識が結びつき、学びの楽しさを実感しました。このような学びの中で、入学前には漠然としていた目標が、航海士という具体的な目標に変わり、今は航海士を目指し

て日々学習しています。3年次からは、進路によってコース選択が分かれていきますが、私は自分の将来の選択肢を増やすために資源管理系・船舶運航系のどちらの科目も履修しています。専門科目が増え、学習内容は難しくなりましたが、すべての学習が自分自身に活かせると考えながら意欲的に学びを深めていきたいと考えています。そして、今後の実習等でそれらの知識を実際の現場で使用することを楽しみにしています。

水産大学校に入学して

海洋機械工学科1年 梶谷隼人

僕は神奈川という地から来て吉見駅に降りた時に、初めて電子マネーが使えない駅を知り、すごい田舎なところに来てしまい充実したキャンパスライフは送れないと思いました。しかし水大は目の前に海があり放課後は大学前の海で釣りを楽しんだり、寮生活ではたくさんの優しい友達ができ充実した大学生活を送ることができています。そんな大学生を過ぎたら社会人となり今まで親に支えられてきた立場から自立し社会に認められお金を得なければなりません。そう考えるとこの期間は一生帰ってこない大切な時間になります。

僕が所属する海洋機械工学科では、三級海技士など社会に出て使える資格を得られることが、強みだと思うのでその強みを活かし将来に役立てたいと思います。大学生は社会人と比べ時間があり今しか出来ないこと、例えば、水産に関する幅広い知識を水大で学び、それを通し視野を広げ新しい自分の発見や人生の分岐点となることが必ずあるので、僕はこの時間を大切に過ごしたいと思います。これから

将来に繋げることが出来る4年間にするには、毎日昨日の自分を超えて1日1日を大切に、具体的な将来像を描き、そのために何が必要なのかを知り、それに向かって努力する4年間にしたいと思います。

研究科に進学して

水産学研究科1年 水産資源管理利用学専攻
辻本春樹

私は食品科学科を卒業後、水産資源利用学専攻分野に進学し、海洋自然毒について研究を行っています。食品科学科での講義や卒業研究を通して学びを深める事の楽しさを知り、さらに専門性を深めたいと思い、研究科へ進学しました。卒業研究での実験の際に、今まで講義や教科書で学んできた事が本当に目の前で起きている事に感動を覚え、日々の実験や卒業論文の発表会を通して、研究には専門知識だけでなく、論理的思考力や表現力など知識以外の様々な力が必要な事を学びました。このような普段身につける事が難しい知識以外の力を身につけたいと思ったのも研究科へ進学した理由の一つです。

研究科では、研究中心の生活になるため講義の合間に研究を行わなければなりません。さらに、研究テーマごとに求められる知識も変わるため勉強する時間も必要です。こうした研究生活を送ることで計画力や幅広い専門知識が身につくにつと実感しています。忙しい日々が続きますが、空いている時間を大切に過ごす事で、毎日が充実した日々を送っています。研究科での生活は2年間と短いですが、研究成果をあげることはもちろん、人としても成長できる2年間にしたいと思います。

クラブ紹介

カッター部（男子部・女子部）

海洋生産管理学科4年 竹岡顕祐

私達カッター部は男子部27名、女子部12名で活動しています。6月の全国大会をもって3、4年生は引退し、現在は1、2年生が中心となって活動しております。部員の殆どが大学から始めており、未経験者でも気軽に入部することができます。そもそもカッター部は何をする部活なのかと言いますと、カッターといわれる大型のボートを漕ぐ部活です。漕ぎ手12名、艇指揮、艇長の合計14名で乗りカッターを漕ぎます。あまり馴染みのない部活ですが、端艇部のある大学は全国に10校ほどあり、春には新人大会、秋には全国大会が開催され、部員は大会に向けて日々練習に励んでいます。

今年の6月2日、本校にて第68回全日本カッター競技大会が行われました。カッター部は新型コロナウィルス感染症の影響で2022年まで活動休止していたため、今大会が活動再開後の初めての大会であり、3、4年生にとっては最初で最後の大会とな

りました。結果は全体5位という悔しい結果となりましたが、無事大会を終えられたことを嬉しく思います。普段は男子部、女子部と別々に活動していますが、今回のような大会開催の際には、両部で一致団結し取り組んでおります。

また、大会では同じ海事系の職業を志す他大学の学生が集まってくるため、カッターを通して様々な繋がりを持つことができます。

私達は随時、カッターで青春を共に過ごす仲間を募集しております。未経験者大歓迎なので興味がある方はぜひ体験にいらしてください。



学生部だより

令和5年度における就職対策と
進路状況について

学生部長(就職対策検討委員長) 村 瀬 昇

本校では就職対策検討委員会を設置して、学生課就職支援室の就職統括役を中心に学生への就職支援を行っています。

就職対策に関する主な活動は、(1) 3年生を主に対象とした自己分析・自己発見のための職務適性テストの実施、(2) 就職活動の専門講師やその他様々な分野で活躍されている講師を招いた就職ガイダンスの開催、(3) 就職手引き書「就活支援ブックー就職活動編ー」を3年生全員に配布し、これを用いた就職指導、(4) 企業等の採用情報の把握、(5) 企業研究会・説明会の開催、(6) 就職活動を行う際のキャリアカウンセリング、(7) 本校の就職支援ツールであるキャリアタス UC の活用等です。

令和5年度は、合同企業説明会を Web で開催し、141 社に参加頂きました。また、水産及び関連分野

の業界や企業の理解を深めることを目的として、キャリア教育の一環として実施している企業研究会・説明会を対面で22件実施するとともに、学生がキャリアタス UC にアクセスして、就職支援情報の提供、水産系企業の求人票や企業情報の閲覧、インターンシップの検索等に活用しました。さらに、採用時に WEB 面接が導入されている背景から、WEB 面接専用のブースを学内に設けるなど環境面でも配慮を継続しました。これらの活動の結果、令和5年度卒業・修了者の就職希望者164名(本科108名、専攻科50名、研究科6名)の就職率は99.4%(前年度は97.0%)で、このうち水産関連分野への就職率が83.4%(前年度は77.6%)でした。

インターンシップは昨年から大きく制度が変わり、就業体験が重要視されるだけでなく、インターンシップに参加した学生情報を企業側が採用選考活動に使用できるようになります。本校では引き続き、多様な採用に関する情報を収集し、学生の就職活動が円滑に行えるように必要な支援を実施してまいります。

令和5年度 卒業・修了者の進路状況

令和6年3月31日現在

本 科 専攻科 研究科	修 卒 了 者 数 び	進 学							就 職 希 望 者 数 ②	就 職										進 路 未 定 者 数	就職率（％）				
		大 学 院	研 究 科	専 攻 科	専 攻 科 等 学	研 究 生 等	進 学 者 合 計	水 産 関 連 分 野								そ の 他 分 野	内 定 者 合 計 ①	水産関連分野			全 体 就 職 率				
								国 家 公 務 員		地 方 公 務 員	各 種 団 体	養 殖 漁 業・ 殖 業	水 産 加 工	水 産 流 通	調 査 開 発 等			供 資 給 機 等 材	小 計 ③			者 就 へ 職 ー 希 ス 望	者 就 へ 職 ー 内 ス 定		
																								③／②	③／①
水 経 産 流 通 科	男	17	0	2	0	0	1	3	1	13	0	1	0	0	0	11	0	0	12	1	13	0	92.3	92.3	100.0
	女	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	1	0	0	2	2	4	0	50.0	50.0	100.0	
海 洋 生 産 科	男	21	0	2	0	0	1	3	1	17	0	1	1	0	0	12	0	0	14	3	17	0	82.4	82.4	100.0
	女	34	1	3	20	0	0	24	0	10	0	0	0	2	0	1	1	5	9	0	9	1	90.0	100.0	90.0
海 管 理 学 科	男	8	0	0	4	0	0	4	0	4	0	0	1	0	0	1	0	1	3	1	4	0	75.0	75.0	100.0
	女	42	1	3	24	0	0	28	0	14	0	0	1	2	0	2	1	6	12	1	13	1	85.7	92.3	92.9
海 洋 機 械 科	男	47	3	3	24	0	0	30	4	13	0	0	0	1	0	0	0	10	11	2	13	0	84.6	84.6	100.0
	女	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
食 品 科 学 科	男	48	3	3	25	0	0	31	4	13	0	0	0	1	0	0	0	10	11	2	13	0	84.6	84.6	100.0
	女	27	1	2	0	0	0	3	2	22	0	1	1	2	11	4	0	0	19	3	22	0	86.4	86.4	100.0
生 物 生 産 学 科	男	17	1	0	0	0	0	1	1	15	0	0	0	0	12	1	0	0	13	2	15	0	86.7	86.7	100.0
	女	44	2	2	0	0	0	4	3	37	0	1	1	2	23	5	0	0	32	5	37	0	86.5	86.5	100.0
計	男	29	5	1	0	0	0	6	0	23	0	4	2	5	3	7	1	0	22	1	23	0	95.7	95.7	100.0
	女	5	1	0	0	0	0	1	0	4	1	0	0	0	0	2	0	0	3	1	4	0	75.0	75.0	100.0
計	男	34	6	1	0	0	0	7	0	27	1	4	2	5	3	9	1	0	25	2	27	0	92.6	92.6	100.0
	女	154	10	11	44	0	1	66	7	81	0	6	3	10	14	23	2	15	73	7	80	1	90.1	91.3	98.8
専 攻 科 船舶運航課程	男	35	2	0	5	0	0	7	1	27	1	0	2	0	12	5	0	1	21	6	27	0	77.8	77.8	100.0
	女	189	12	11	49	0	1	73	8	108	1	6	5	10	26	28	2	16	94	13	107	1	87.0	87.9	99.1
専 攻 科 船舶用機関課程	男	19	0	0	0	0	0	0	19	3	0	0	0	0	8	4	0	15	4	19	0	78.9	78.9	100.0	
	女	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	2	0	0	1	0	1	4	1	5	0	80.0	80.0	100.0	
計	男	24	0	0	0	0	0	0	24	3	0	2	0	0	9	4	1	19	5	24	0	79.2	79.2	100.0	
	女	25	0	0	0	0	0	0	25	4	0	5	0	0	8	1	0	18	7	25	0	72.0	72.0	100.0	
計	男	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0.0	0.0	100.0	
	女	26	0	0	0	0	0	0	26	4	0	5	0	0	8	1	0	18	8	26	0	69.2	69.2	100.0	
計	男	44	0	0	0	0	0	0	44	7	0	5	0	0	16	5	0	33	11	44	0	75.0	75.0	100.0	
	女	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	2	0	0	1	0	1	4	2	6	0	66.7	66.7	100.0	
計	男	50	0	0	0	0	0	0	50	7	0	7	0	0	17	5	1	37	13	50	0	74.0	74.0	100.0	
	女	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	3	0	100.0	100.0	100.0	
研 究 科	男	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1	3	0	66.7	66.7	100.0	
	女	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	1	3	5	1	6	0	83.3	83.3	100.0	
総 合 計	男	201	10	11	44	0	1	66	7	128	7	6	8	10	14	39	8	17	109	18	127	1	85.2	85.8	99.2
	女	44	2	0	5	0	0	7	1	36	1	0	5	0	12	6	0	3	27	9	36	0	75.0	75.0	100.0
計	男	245	12	11	49	0	1	73	8	164	8	6	13	10	26	45	8	20	136	27	163	1	82.9	83.4	99.4
	女																								

【就職先の分類】

水産関連分野

各 種 団 体：水産に関する団体（漁業、流通、船舶等関係団体）

漁 業・養 殖 業：水産動植物の採捕又は養殖の事業者

水 産 加 工：水産動植物を原料又は材料として、食料、肥料その他の有用物を生産する事業者

そ の 他：水産業関連分野以外の公務員・団体・企業など

水 産 流 通：水産物の貯蔵、運搬、販売等の流通に関する事業者

調 査 開 発 等：海洋水産関連の調査会社

資 機 材 供 給 等：水産業やそのサービス部門等に資機材供給等を行う関連事業者

令和5年度卒業生進学・就職状況一覧表

令和6年3月31日現在

◎進 学（大学院等）	民間企業		
北海道大学大学院	AMAMI BLUE RESORT	JA 山口	はごろもフーズ(株)
東京海洋大学大学院	いなば食品(株)	商船三井クルーズ(株)	(株)はたえ
九州大学大学院	飯野海運(株)	商船三井さんふらわあ	八馬汽船(株)
岡山理科大学大学院	飯野ガストランスポート(株)	商船三井テクノトレード(株)	(株)はま寿司
宮崎大学大学院	池田糖化工業(株)	(株)新来島どっく	林業産業(株)
愛媛大学大学院	(株)A コープ鹿児島	新日本海フェリー(株)	(株)ファーストドロップ
佐賀大学大学院	(株)うおいち	(株)水研	フィードワン(株)
	(株)魚国総本社	Stay Gold 合同会社	福岡県魚市場(株)
	宇部興産海運(株)	(株)生活品質科学研究所	(株)福岡魚市場
◎就 職	占部大観堂製薬(株)	(株)ゼンショーホールディングス	フクシマガリレイ(株)
官公庁	(株)STI フードホールディングス	第一中央汽船(株)	双葉産業(株)
水産庁（総合職）	NS ユナイテッド海運(株)	ダイキンアプライドシステムズ	(株)プレジリアル
水産庁（船舶職員）	NS ユナイテッド内航(株)	(株)ダイショー	(株)ベニレイ
東京都	NX 海運(株)	ダイハツディーゼル(株)	ホクモウ(株)
山口県	ENEOS オーシャン(株)	太平洋フェリー(株)	マイスティア
徳島県	オーシャントランス(株)	大洋エーアンドエフ(株)	(株)松岡
姫路市	(株)大森淡水	(株)高田魚市場	(株)マリンエージェンシー
平戸市	海清水産(株)	(株)タカミヤ	マルAフェリー(株)
	海洋建設(株)	(株)拓洋	マルハニチロ(株)
	鹿児島船舶(株)	(株)タジマモーターコーポレーション	向島ドック(株)
各種団体	カネリョウ海藻(株)	WDB (株) エウレカ社	名門大洋フェリー(株)
(独) 国際協力機構	川崎汽船(株)	中央魚類(株)	門司港レトロビール(株)
(国研) 水産研究・教育機構（研究職）	川崎近海汽船(株)	築地魚市場(株)	森永乳業(株)
(国研) 水産研究・教育機構（技術職）	関光汽船(株)	東海漬物(株)	(株)モンベル
(国研) 水産研究・教育機構（船舶職員）	関釜フェリー(株)	東海澱粉(株)	ヤマエグループホールディングス(株)
東京海洋大学（船舶職員）	関門港湾建設(株)	(株)道水	ヤマエク野(株)
全国合同漁業共済組合山口県事務所	(株)グローバルオーシャンディベロップメント	東都水産(株)	(株)山口油屋福太郎
北海道漁業協同組合連合会	黒瀬水産(株)	(株)東ハト	(株)ヤマト 房総の駅とみうら
枕崎市漁業協同組合	桂新堂(株)	東洋水産(株)	陽進堂ホールディングス(株)
(一財) 新日本検定協会	ケイラインローバルシップマネージメント(株)	東洋信号通信社	(株)吉田生物研究所
(一社) 日本海事検定協会	(株)廣貫堂	(株)ニチレイ・ロジスティクス関西	米田海産(株)
	五栄土木(株)	日鉄テックスエンジニア(株)	(株)ヨンキュウ
	コスモ海洋(株)	日東製網(株)	
	コンパスグループ・ジャパン(株)	日本海洋事業(株)	
	山九(株)	(国研) 日本原子力研究開発機構	
	三共水産(株)	日本サルベージ(株)	
	(株)サンヨー堂	日本郵船(株)	

五十音順

令和6年度入試状況

本校の令和6年度入試状況をお知らせします。昨年11月に実施した学校推薦型選抜には、全学科で132名（前年度136名）の応募があり、また、今年2月に実施した一般選抜には全学科で536名（前年度541名）の応募があり、推薦と一般の合計で668名の志願者数となりました。

学科別応募状況は、水産流通経営学科45名（募集人員20名に対する倍率2.3倍）、海洋生産管理学科143名（募集人員45名に対する倍率3.2倍）、海洋機械工学科80名（募集人員45名に対する倍率1.8倍）、食品科学科100名（募集人員45名に対する倍率2.2倍）、生物生産学科300名（募集人員30名に対する倍率10.0倍）でした。全体では668名（募

集人員185名に対する倍率3.6倍）、前年度（令和5年度）入試の志願者数677名（3.7倍）から9名の減少となりました。

昨年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけが「2類」から「5類」へ変更したことに伴い、令和5年度の西日本を中心とした高校訪問については、ほとんどの高校を直接訪問して本校の紹介などができました。また、昨年度のオープンキャンパスは、8月19日と20日に、参加者数を増やして校内で実施しました。たいへん盛況で本校の魅力を十分に知っていただいたと実感できました。

今年度も引き続き、受験生確保のための活動として高校訪問やオープンキャンパスなどへ積極的に取り組むことで、水産学を学ぶ意欲の高い、多くの高校生に志願して頂けるよう努力して参ります。